

登校拒否・不登校問題 第25回全国のつどいin京都 実行委員会ニュース No. 5



第25回登校拒否・不登校問題全国のつどい 実行委員会事務局発行 2023年9月21日

【事務局連絡先】 メール kyoto.tsudoi.2023@gmail.com
携帯 080-4483-9224 (つどい専用)
〒607-8033 京都市山科区四ノ宮芝畑町1-9 林方
FAX 075-594-5841
ホームページ: <https://zenkokuren.jp/tsudoi>

本番間近となりました

9月10日(日)第5回実行委員会を開きました



快晴の亀岡。残暑というにはきびし過ぎる日差しの中、各地から80人を超える参加がありました。全国からは、長野・埼玉・福岡・東京・神奈川・長崎・滋賀・大阪・兵庫・和歌山、そして京都からは50人近く参加しました。

「ガレリアかめおか」という広々とした会場を見ていただき、分科会ごとの話し合いも行って、本番のイメージをもってもらうことができましたが、同時に「安心して話せる空間」をつくるためには、さらなる工夫が必要だということも浮きぼりになりました。

実行委員長・春日井敏之さん(立命館大学大学院教授)のあいさつより

この場所で開かれる「つどい」本番まで1ヶ月を切りました。今日が最後の実行委員会になりますのでよろしくお願いします。

今年3月に文科省がCOCOLOプランを立ち上げた。文科省も今後への危機意識を深めていて、学校の在り方がどうあるべきかと深刻に受けとめて審議している。これまで取り組まれてこなかった、子どもの学びの保障に向けた不登校対策として、学びたい時にきちんと学べる環境、教員等が組織的に対応できるチーム学校、学校風土の見える化を強化するように意識していると思う。ただ、そこに子どもの声が反映されているだろうか?とも感じる。

学校否定論でなく、不登校・登校拒否は、子ども達が今の学校はしんどいと感じている、そうでなく行きたいと思える、行ける学校にしたいというメッセージなのだと思われ、私たちは運動してきた。本当に安心・安全な学校とはどういうふうにしたらよいのかと学校の先生達ともやりとりしながら作っていくのは相当難儀なことだが、本気でやらないと学校が崩壊していく。公教育の解体だ。

だからこそ文科省も危機意識をもっていると思うが、当事者の子どもと本当に向き合い、一緒に考えるプロセスが必要と思う。その思いを私たちがキャッチできているだろうか。

現在は目の前の不登校の子どもへの支援にフォーカスしがちだが、それでは事後対応になる。目の前の子どもへの対応と同時に、そうならない学校づくりの視点が大事だろう。「つどい」でもそうしたことを全面的に打ち出す必要があり、そうした活動が文科省の考える学校づくりについても影響を与えていけるのではないかと。子ども達自身が安心安全、面白いと思える学校とはどんな場なのか、そういうことも今日の議論の中で深めてもらえたら嬉しい。時間に限りはあるが、運営についてなど話し合っていたきたい。

第4回実行委員会後の取り組みの報告 〈事務局長より〉

- (1) 参加申し込みについて ✕切日を9/15まで延ばした。当日受け付はできる。
 - ・9/9現在の申し込み人数は300人を超え、その後も増えてきている。
 - (2) 手話通訳者の件→全体会・基礎講座1・分科会⑨と④に手話通訳が入ることになった。
 - (3) 社会福祉法人亀岡福祉会ときょうされん事業所の協力について
 - ・JR亀岡駅南口とガレリア間直通送迎バス(片道200円)マイクロバス2台とワゴン車2台
 - ・きょうされんの物品販売 ロビーギャラリーでコーヒー・焼き菓子など。
 - (4) 観光協会 かめおかマップ500枚準備
 - (5) 地元の方々の要員協力
 - 受付(親の会、教組、新婦人) 救護・おやすみどころ(親の会)
 - 駅前での案内(退職教職員・新婦人)
 - (6) 行事保険に加入します。
 - (7) 協賛金の報告
 - ・事業所や個人、全国的団体からの協賛金も増えてきているが、今後も募りたい。
- さまざまな協力の申し出をいただいている。補い合っけてきもちよく「つどい」をつくりたい。



9月中旬以降、参加証が入った封筒を郵送します。
「参加者のみなさんへ」をよく読んでおいてください。

★みなさんの安全確保のために

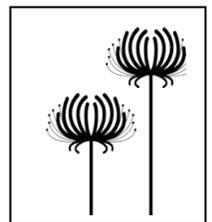
- ①まだコロナウイルス感染への用心が必要です。すべて対面での「つどい」ですのでマスクの準備など自主的な対策をお願いします。発熱など体調に不安があれば参加をお控えくださるようお願いいたします。
- ②「つどい」の2日間は、すべての参加者が個人情報を守られ安心して居られる場をみんなで作りたいと思います。参加者の発言を録音しないこと。参加者を撮影しないこと。もちろんSNSでの拡散はしないでください。

★前日準備 10/6(金)17:00からコンベンションホールにて。参加・協力をお願いします。

分科会等に 分かれての 話し合い

「分科会連絡係」を中心に、話し合いを進めました。

- ・分科会会場の確認
- ・新しく加わってくれた世話人の確認
- ・分科会世話人名簿の作成、付け加え
- ・分散会に分けるかどうか
- ・分科会のながれ
- ・役割分担
- ・10/7(土)の分科会世話人打ち合わせへの参加と軽食弁当の確認



ふたたび全体で集まり、

各分科会等で話し合われたことを報告し合いました

①小学生 新規世話人がなく少数で頑張ろうと話した。後半は若いお母さんの現状について相談員の人から話を聞いた。

- ・現在の小学校分科会の希望者35人なので分散会も必要かと。その場合は司会や記録が不足するので、現役教師やOB等の応援をお願いしたい。
- ・割り当てのホールは広いのでパーティションで区切りたいが、全体会后すぐ準備して開始出来るかというのも不安。

②中学生 はじめに、提出物関係の確認をした。参加人数を考えると 2 つの分散会にすることになるかということで、司会・記録が不足することも考えて役割を分担した。

- ・会場が広いが、パーティションなどで仕切ることなど考えてもらいたい。
- ・後半は進め方や、不登校がいまどういう状況になっているかの交流をした。

③高校生 今日の出席者は少なかった（3 人）が、初参加の京都のお母さんや東京からの参加もあり、2 つの分散会ができると話した。ゆっくり話せた。

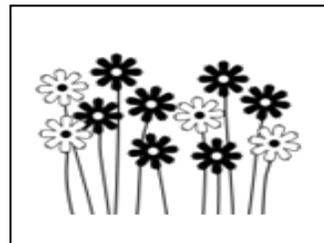
- ・進行としては、当日の自己紹介で京都のお母さんに少しゆっくり話してもらい、全体的に話しやすい雰囲気になりたい。まだ細かな分担は決まっていないが、連絡係を中心にやり取りしていく予定。
- ・会場が広く天井も高いので、出来ればパーティションがほしい。もしなくても、小・中・高校生それぞれの分科会とわかるような看板などの表示物を事務局でお願いしたい。

④障がい 出席は 2 人（分科会世話人としては初参加）だったが前回世話人だった方にも入ってもらって話し合った。分散会になるかもしれない。対応できる司会と記録はぎりぎり確保というところ。

- ・会場を確認したところ、机を左右に分けて椅子を追加すれば分散会も対応可能かと思う。
- ・内容的に大事にしたいのは、障がいの分科会ということもあり、安心して気持ちを十分語る場にしたい。良いことを聞いたからと、SNS で広めたりすると、大ごとになってしまうことがある。世話人さんの打ち合わせでもよく確認したい。世話人にベテランが多く、安心して進められそう。

⑤学校づくり 30 人以上になったら適宜分散会にする予定。司会・記録は決まった。1 日目は親の立場で話題提供してもらおう。2 日目午前は小学校の相談室の紹介を先生にしてもらう。2 日目午後は親の立場の人の話をしてもらい、学校づくりについても交流する。

- ・自己紹介は初回の参加の折にじっくりしてもらおう。



⑥青年期 世話人が 6 人集まり自己紹介。これまでのつどいの関わり、苦労話など。実務的には分科会の運営について話した。この分科会にどういう人が来てどういう要求をもっているかと話し合ったが、実際はわからないのであまり細かく想定しないことにした。名前も伏せたい人、外にもれることを快く思わない人がいるだろう、そういうこともイメージしつつ、しっかり話し、しっかり聞けるように。司会者が方向付けるようなことは戒め、参加者の思いをしっかりと聞き、帰る時に来て良かったと思ってもらえるようにしたい。

⑦進路自立 現状で 66 人の参加予定。延べ人数なので配分は不明。今日は世話人 3 人。この部屋が会場になるが 66 人がどう収まるのか？と。声は筒抜けかもしれないが、パーティションがあると落ち着けるかと。3 分散会にスタッフを分けた。声が飛ぶと小さい声の人は話が聞こえにくいだろうから、座る輪を小さくするなど工夫したい。

⑧居場所A 今日は 2 人で話し合った。つどいの核心のところをテーマにしているようにも感じている。当事者や親の立場から、自分自身の居場所を獲得するためにどんな歴史をたどってきたのかという話がしたい。相談者の立場としては、何が本当なのか、悩みを率直に出したいと話していた。前回の実行委員会と今日とでは参加者（世話人）が違うので、LINE で話し合うと良いかもしれないと思う。

⑧居場所B 丁寧に自己紹介した。世話人 10 人中 5 人の参加があり、少しほっとした。分科会としては、ほっとする分科会にしたい。話さないことも保障する。1 日目は自己紹介や思いを話し

てもらう。2日目はミニ講演、福知山の居場所の人から話題提供、質疑応答など。午後は交流中心。司会、記録、弁当係は決まった。20数名なので分散会なしでやりたい。

◎親・家族 世話人9人中5人参加。施設内を見学。
43人の予定、当日の部屋はやや狭いか。場所を再考してもらいたい。

- ・当日の役割分担は概ね決まった。
 - ・安心して話せ、良かったと互いに思えるような、押しつけないことを大事にしたい。
- この分科会を選んだわけなども聞ければと思う。



⑩手をつなぐ輪 今日は2人参加。ベテランが多いとのこと。司会は決め、記録、弁当など、当日打合せで決めようと。親の会の今後や初日の自己紹介からいろいろ進行を決めればよいかと思っている。2日目は東京の方から、全国のつどい後のことなど話してもらい、交流につなげたい。目の前の子どももそうだが、実行委員長の話でもあった、全体の流れをどうとらえるのかという話もしたいと話し合った。

⑪医療 世話人7人で当日の机の配置や進め方など話し合った。助言しないでじっくり話を聞くことに徹しようと。司会の進め方としては、初参加や早めに帰る人にも配慮し、最後に10分は時間をとって振り返りもしたい。

⑫非行 第4回実行委員会では世話人4人中2人だけ、それも初参加同士だった。今日は以前から分科会を作ってきた人も参加してくれ、前回の様子やこれまでの流れを教えてもらった。非行のことなので、否定面にこだわるとしんどさが増すので、肯定的な側面も考え、出来るだけたくさんの人に発言してもらおうと話し合った。いろいろな思いを出しやすい場を作りたい。

- ・それぞれのコマの30分前にはまとめに入り、感想やその時点で帰る人の発言を保障して終えたい。

基礎講座1 8月下旬に講師の福本早穂さんと打ち合わせ。大まかな進行としては、講師に75分程度話してもらい、その後グループに分かれて感想や質疑をまとめ、報告してもらったらどうかという話になった。「あんだんて」から福本さん含め4人参加予定。

- ・講師からパワーポイントを使用できるかとの質問あり。

基礎講座2 当日のタイムスケジュールとどういうこと中心に進めるか話し合った。講師の春日井敏之さんから、学校の現状など問題提起、話題提供してもらう。その後、討論で学校の先生や保護者それぞれが大事にしてきたこと、学校への願い、家での様子など話してもらい、できそうなことを話し合う。ヒント、今後の方向性など希望を持って帰ってもらえるようにしたい。グループは5~6人、教師と保護者を混ぜて考える。報告ではみんなに聞いてもらいたいこと、質疑などを話してもらう。

ひろば 工作室と創作室の2部屋をもらっている。工作室を「いこいのひろば」もう一つは「遊びのひろば」にしたい。今回は分科会の詳細案内を送付しないので、「ひろば」の内容は速報でお知らせしたい。部屋が硝子張りなので、当日は内側からお知らせを貼るなど工夫したい。カードゲーム、折り紙、しりとりなど、内容について話し合った。「遊びのひろば」では型抜き大会、粘土遊びも。予算をつけてもらっている範囲で準備したい。世話人が足りない状況。関わってよいという人がいれば声かけを。東京のお母さんが見守り役で協力するよと言ってもらえたのでお願いした。

速報 館内ツアーをして、コンベンションホールと本部の位置、そこからコピー機、印刷場所など、動線を確認。印刷機の使用にあたって、地元の方の尽力をいただき感謝したい。印刷、仕分

参加者の感想



(たくさんの方の感想を頂きました。一部を掲載いたします)

◎実行委員長あいさつで「参加される方の気持ちをどれだけくみ取ることができるか」とあったと思います。

最近その感覚がにぶってきたと思っており、改めて感覚をみがこうと思いました。

事務局の報告で多くの人のサポートでこのつどいが成り立っていることを感じました。
(京都・家族)

◎本番直前の最後の実行委員会に参加させていただき、私もみなさんの一員として「つどい」に参加させていただけることを本当にうれしく思いました。

4年ぶりのつどいを楽しみに待っておられる参加者の皆さんが「来てよかったな」「話せてよかったな」と感じていただけるような基礎講座の2にしていきたいなと思います。学校行事があり、1日目の夕方からの参加になりますが、私も全国のみなさんとなつなっていきたいです。どうぞよろしくお願い致します。

(京都・教職員)

◎今回の世話人は5人！ 前は1人。

ちょっと、安心しました。

当日はほっとできる分科会にしたい。

ミニ講演の方からもしっかりお話が聞けて、当日が楽しみです。

(大阪・家族)

◎今回の実行委員会で色々の問題点が明らかになり良かったと思います。

分科会への参加人数の関係で与えられた部屋ではとても入れないの別途、分科会会場を考えてほしい(第9分科会 45人)。
(京都・家族)

◎分科会当日の確認ができてよかった。当日はもっとたくさんの方がつどいを作っているというのが改めてわかる会でした。
(京都・青年)

◎今回、2回目の参加でした。

これまでの歴史や雰囲気や皆さんから聞き、不思議ですがとても元気が出ました。

自己紹介では、ご家族のこと、今の生活を聞くことでその人らしさを感じられ、とても親しみを覚えました。

(京都・家族)

◎ベテランの世話人の方がとても手慣れておられるのに感心しました。

これまでの歴史の中で積み重ねてこられたのだと思います。

少しずつ、新しい参加の方にも受け継いで行き、続けて行ければ良いなと

思いました。
(京都・支援者)

◎最初で最後の実行委員会参加となりました。参加して本当によかった。

いい分科会にしよう。

親の思いを大切にしよう。

人の話を聞きながら、もっと話したくなるような、みんなで心の深みにこぎ出して行けるような分科会にということを短い時間で確認できました。当日が楽しみです。
(埼玉・家族)

◎いよいよですね。

具体的にイメージをして、取り組む皆さんの姿に、あーもうすぐだなと実感しました。
(滋賀・家族)